

状況・問題点の整理

整理の観点

(1) 移動手段	①鉄軌道	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道は、区外への主な移動手段であり、主に通勤・通学での都心方面へのアクセスを担っている。 地下鉄8号線延伸による南北鉄道軸の形成が望まれるため、着実な事業の実施が必要。
	②路線バス	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスは、特に南部地区西・東や城東南部地区、また高齢者において区内の主要な移動手段である。 特に城東南部地区では駅端末手段としても路線バスが利用されている。 一方で、南部地区西・東や城東地域でも利用者数が少なく営業係数が高い路線(赤字路線)が存在する。
	③コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> 利用者・収支率は増加傾向であり、要望が多かった豊洲ルートの実証運行を令和6年度より実施。 地下鉄8号線延伸によりコミュニティバス運行エリアの鉄道利便性向上も想定されることから、地下鉄8号線延伸の開業に合わせ、より効果的なルートや運行時間等を検討する必要がある。
	④～⑥ 舟運・コミュニティサイクル・新たな交通システム等	<ul style="list-style-type: none"> にぎわい創出や移動の選択肢増等による江東区の魅力向上や災害時の対応等に向けた、舟運の効果的な活用が望まれる。 区内回遊性の向上や多様な移動手段の利用が可能な環境構築に向けて、コミュニティサイクルの利便性向上が望まれる。 都営バス路線網を補完し、高齢者等を対象とした新たな交通システム導入について検討し、導入効果の高い地域として南砂等が選定され、地域特性に適した交通システム(デマンド交通)の検討が進められている。
(2) 公共交通サービス圏域外	<ul style="list-style-type: none"> 城東地域等では公共交通サービス圏域外のエリアが存在し、既存公共交通での南北移動の利便性が低い状況である。 今後の運転手不足等による路線バス減便・廃止等も想定される中、将来的に公共交通サービス水準が低下する可能性も懸念される。 地下鉄8号線延伸による南北鉄道軸形成も契機に、南北移動利便性向上を図るべく、バス路線を維持・再編する必要がある。 	
(3) 移動ニーズ	①区民の移動ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設や病院へのアクセス性が低い地域や高齢者の多い地域では、日常(買い物・通院)移動の不便感が高い傾向。 将来的に更なる高齢化の進行も想定される。
	②来訪者の動向	<ul style="list-style-type: none"> 増加が見込まれる来訪者の回遊性の向上に向けて、区内の資源を有効に活用していくことが望まれる。
(4) 将来像・社会動向等	①区の将来像・まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 江東区では将来都市像を「持続的に発展する共生都市」と定め、地域・地区の特性やまちづくりの動向を踏まえ、各拠点の方針が設定されている。 地下鉄8号線沿線まちづくりをはじめ、目指すまちづくりの実現や開発計画への適切な対応が望まれる。 区の道路網は都市計画道路や湾岸部の臨港道路を骨格に形成されている。また、江東区道路網整備計画にて、道路の機能を踏まえた道路分類別の整備方針・計画が示されている。 無電柱化に向けた取組も推進されており、防災機能強化や移動空間確保への貢献が期待される。
	②その他社会動向	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術は近年急速に技術革新が進む中、運転手不足への対応等につながる技術としての活用が期待されている。 地域交通利便性向上を図る技術としてMaaSや次世代モビリティの活用が期待され、技術の動向を踏まえつつ、活用に向けた適切な対応が望まれる。 「ゼロカーボンシティ江東区」の実現に向け、モビリティにおける脱炭素化が望まれる。 自然災害の激甚・頻発化や首都直下地震等が予想される中、災害対応に関する各種計画との連携が望まれる。 「江東区地域福祉計画」や「江東区バリアフリー基本構想」の下、移動支援や交通施設等のバリアフリーへの取り組みが進められている。

課題整理

● 幹線公共交通に関する課題

- 地下鉄8号線延伸の**着実な整備等**、公共交通のネットワーク機能の**維持・強化**が求められる。
- 既存公共交通との**役割分担**のもと、地下鉄8号線新駅も踏まえた**交通結節点の乗継利便性・アクセス性の維持・強化**が求められる。

● 地域内公共交通に関する課題

- 区民のニーズを踏まえた、**日常生活の移動手段の確保・支援**が必要。
- 来訪者の集中する拠点に加え、区内の**歴史・文化資源を活かした、区内での回遊性の向上**が必要。

● 移動支援が必要な区民等に関する課題

- 移動が困難、**移動支援が必要な区民等**にとって**移動の負担が少ない交通手段の確保**が必要。

● 将来の移動に関する課題

- 将来的な交通サービスの**低下が懸念**される中、**持続可能な公共交通の確保**が必要。
- 脱炭素社会の実現**や**災害に強いまちづくり**に向けた、**交通面からの対応**が必要。

(1) 江東区の目指す将来像及び区内の交通体系

- ・区の将来都市像『持続的に発展する共生都市』及び対応する区内の交通体系の実現に向けて、地域公共交通に係る施策を展開する。
- ・地域公共交通施策に関する基本方針のもと、計画目標を定め、課題の改善に向けて取り組む。

「江東区都市計画マスタープラン2022」(令和4年3月)において、以下のとおり「将来都市像」及び「道路・交通部門のまちづくり方針」が設定されている。

将来都市像

『持続的に発展する共生都市』

道路・交通部門のまちづくり方針

快適に移動できるネットワーク都市

公共交通を基軸として誰もが快適に移動でき、都市サービスにアクセスしやすい道路・交通の環境形成

取組方針1 安全で快適に移動できる道路ネットワークの形成

幹線道路、地区主要道路、生活道路の整備、改善、土地利用転換に合わせた道路整備を進め、体系的な道路ネットワークを整備するとともに、道路インフラの着実な維持管理・更新を図り、安全で快適に移動できる道路ネットワークの形成を推進します。

取組方針2 効率的に移動できる公共交通ネットワークの形成

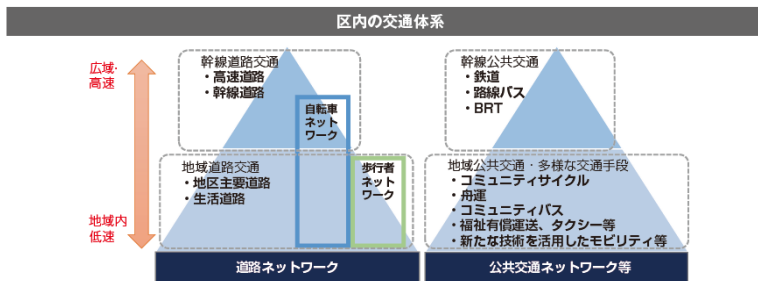
地下鉄8号線の延伸に関する取組を推進するとともに、都心部や空港などのアクセス強化、南北交通の充実に向けた新たな交通の導入、バス交通の更なる充実により、効率的に移動できる公共交通ネットワークの形成を推進します。

取組方針3 多様な移動手段を利用できる環境整備

自転車利用環境の向上、水辺を活用した交通ネットワークの形成、地域ニーズに応じた交通手段の充実により、多様な移動手段を利用できる環境整備を推進します。

取組方針4 人の移動や滞留を円滑にする環境づくり

利用しやすい公共空間の形成、人中心の道路空間の形成、鉄道駅などにおける交通結節機能の強化により、人の移動や滞留を円滑にする環境づくりを推進します。



目指す将来交通ネットワーク形成方針

道路・交通部門のまちづくり方針に基づき、目指す将来交通ネットワーク形成方針を以下の通り設定する。

- 都市計画マスタープランを踏まえ、将来都市構造における都市核間の連絡及び将来の拠点機能の強化に資する幹線的な交通ネットワークを形成する。

(幹線的な道路ネットワーク)

広域交通との連携に留意し、東京都都市計画道路ネットワークにおける「骨格幹線」とする。

(幹線的な公共交通ネットワーク)

広域交通との連携及び都市計画マスタープランにおける公共交通ネットワークとの整合を図るとともに、都市核間の連絡を補完する主要なバス路線等により形成する。

【交通ネットワークの機能分担の考え方】

交通機能	道路ネットワーク	公共交通ネットワーク
広域交通	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路 ・幹線道路 (骨格幹線道路) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道 ・主に区外との連絡等に資する主要バス路線 等
地域内の主要交通 (都市核間の連絡、地域核・広域核等の連絡等)	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路 (骨格幹線道路) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道 ・区内の都市核間連絡及び城東地域のまちづくり、臨海部の機能強化等に資する主要バス路線 等
地域内交通	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路 (補助幹線道路) ・地区主要道路 ・生活道路 	<ul style="list-style-type: none"> ・その他バス路線 ・コミュニティバス ・舟運 等

※骨格幹線道路・補助幹線道路は、東京都都市計画道路ネットワークにおける位置づけに基づく。

•都市計画マスタープランにおける「幹線道路ネットワーク」及び「公共交通ネットワーク方針」や「江東区臨海部都市交通ビジョン」(令和6年3月)における臨海部の都市交通の目指す姿、東京都及び江東区における道路整備関連計画における位置づけ等を踏まえ、目指す将来交通ネットワーク形成方針に基づく将来道路ネットワーク及び将来公共交通ネットワーク形成の考え方を整理する。

【目指す将来道路ネットワークの形成方針】

【目指す将来公共交通ネットワーク形成方針】



骨格幹線
※東京都都市計画道路ネットワークにおける位置付け

臨海部へのアクセス強化

都市計画道路

- 完成及び概成
- 事業中
- ⋯ 未着手

[うち優先整備路線]

- 区施行路線
- 東京都施行路線

その他幹線道路

- 完成
- 構想路線

立体交差化

- 国道357号(湾岸道路)の交差立体化の推進

構想路線:

本区のまちづくりにおいて、今後の土地利用転換に合わせた補完整備の検討に要する路線を示したもの

0 500 1,000 m

※「都市づくりのランドデザイン」(東京都、平成29年9月)、「江東区道路網整備計画」(令和4年3月)をもとに作成



広域交通

地域内の主要交通

- 主要バス路線等による都市核間等の連絡
- 主要バス路線等による地域核・広域核等の連絡
- 現状の主要なバス路線

都市計画マスタープランにおける位置付け

- 都市核
- 地域核
- 広域核
- 交流拠点
- 新駅拠点

- 東西都市軸
- 南北都市軸
- 湾岸軸

- 鉄道路路線(JR)
- 鉄道路路線(地下鉄・私鉄)
- 鉄道(計画・構想)

0 500 1,000 m

※都市計画マスタープランにおける公共交通ネットワーク方針図をもとに作成

(2)地域公共交通施策の基本方針

・(1)江東区の目指す将来都市像及び交通体系の実現に向けて、地域公共交通施策展開の基本的な考え方を示す。

地域公共交通施策の基本方針

1. 目指すべきまちの姿の実現に向けた交通施策の推進

鉄道及び主要なバス路線等により、目指す都市構造を支える公共交通ネットワーク形成を促進するとともに、都市核等の賑わい強化や地域の価値向上に資する施策を展開する。

2. 誰もが快適に移動できる環境の創出

移動制約者などきめ細やかな移動支援を必要とする区民をはじめ、区外来訪者も含めた、誰もが安全で快適に移動できる環境の創出を図っていく。

3. 将来にわたって持続可能な地域公共交通の確立

多様な交通手段を活用するとともに、最新技術を取り入れながら、持続可能な地域公共交通を確保していく。

地域公共交通施策の基本方針
+公共交通に関する課題

【目指す将来交通ネットワーク形成に向けた施策展開の方向性】

- (1)鉄道・主に区外との連絡等に資する主要バス路線を広域的な幹線として、地域内の交通は主要なバス路線等により対応
- (2)ネットワーク機能維持・強化、まちづくりと連携した結節機能(モビリティハブ等)の強化
- (3)城東地域については、路線バスと地域内交通を併せた南北方向等の移動手段確保
- (4)臨海部のポテンシャル向上に対応したアクセス機能・回遊機能の強化
- (5)先端技術(自動運転、MaaS等)を活用し、利便性や魅力向上
- (6)持続可能な地域公共交通の維持・整備

【目指す将来交通ネットワーク形成に向けた施策展開のイメージ】



(3)本計画の目指すべき将来像・計画目標

・都市計画マスタープランにおける道路・交通部門のまちづくり方針である「快適に移動できるネットワーク都市」を本計画の目指す将来像として設定し、公共交通を取り巻く課題を踏まえ、計画目標を設定。

本計画の目指すべき将来像:

快適に移動できるネットワーク都市 江東区

基本方針1

目指すべきまちの姿の実現に向けた交通施策の推進

基本方針2

誰もが快適に移動できる環境の創出

基本方針3

将来にわたって持続可能な地域公共交通の確立

公共交通に関する課題

計画目標

課題1

移動の軸となる幹線公共交通ネットワークの形成が不十分

・地下鉄8号線延伸を見据えた交通結節機能の強化が必要

1

都市構造を支える公共交通ネットワークの機能強化

基幹軸・結節点への対応の視点

課題2

地域の移動需要を支える移動環境の整備が不十分

・日常生活の移動利便性向上のためニーズを踏まえた移動手段の確保が必要
・江東区の魅力向上に向けた多様な移動手段の確保と回遊性の向上が必要

2

区民の日常生活や来訪者を含めた区内回遊を支える移動環境の整備

地域内交通への対応の視点

課題3

移動支援が必要な区民等の生活を支える移動手段が不足

・移動支援が必要な区民等に対するラストワンマイルの移動手段の確保が必要

3

社会情勢の変化を見据えた持続可能な公共交通環境の整備

持続可能な公共交通環境への対応の視点

課題4

社会情勢の変化等に対応した持続可能な公共交通環境の整備が不十分

・公共交通の持続的な維持が必要
・持続可能な社会の実現に寄与する交通環境の整備

・計画目標を踏まえ、課題への対応の方向性を設定し、具体的な施策を検討中。

上位関連計画における取組との関連
(※上位関連計画における取組の記載とは完全に一致していない)

計画目標

施策(案)

取組(イメージ)

都市
マス

臨海
ビジョン

1 都市構造を支える
公共交通ネットワーク
の機能強化

- ・区内外の円滑な移動の実現を図るため、鉄道・路線バスなど骨格となる基幹的な公共交通ネットワークを強化・維持・再編する。
- ・公共交通のネットワーク機能を十分に発揮し、誰もが快適かつ円滑に移動ができるよう、交通結節機能を強化する。

施策(案)	取組(イメージ)	都市 マス	臨海 ビジョン
円滑に移動できる公共交通ネットワークの形成	地下鉄8号線延伸の推進	●	●
	路線バス運行の維持・再編	●	●
区内外のアクセス性強化	地下鉄8号線延伸の推進	●	●
	地下鉄8・11号線延伸の推進に向けた沿線自治体との連携		
	都心部・臨海地域地下鉄の整備の推進	●	●
円滑に移動できる交通結節機能の強化	羽田空港アクセス線(仮称)の整備の推進	●	●
	乗り継ぎ利便性の向上	●	●
	モビリティハブの整備		●
	待合環境の整備		
	デジタル技術を活用した案内誘導システムの導入		●
誰もが安心して移動できる交通施設の整備	地下鉄8号線延伸新駅周辺等の自転車駐車場整備	●	
	歩行空間の安全性・連続性を高めるバリアフリー化の推進	●	●
	施設等のバリアフリー化の推進	●	●

・施策・取組は案出し段階。今後、各関係者・協議会等の意見を踏まえて精査予定。

・計画目標を踏まえ、課題への対応の方向性を設定し、具体的な施策を検討中。

上位関連計画における取組との関連
(※上位関連計画における取組の記載とは完全に一致していない)

計画目標

2 区民の日常生活や来訪者を含めた区内回遊を支える移動環境の整備

- ・区民の日常生活における移動手段の確保・利便性の向上を図るため、地域の特性やニーズに応じた多様な交通サービスを展開する。
- ・移動制約者をはじめ、よりきめ細やかな移動支援を必要とする区民に対して円滑に移動できる環境づくりを進める。
- ・区内各地域のにぎわい創出に向け、地域資源を活かした区内回遊性向上を図るため、多様な交通サービスを利用できる環境づくりを進める。

施策(案)

取組(イメージ)

都市
マ
臨海
ビジョ
ン

計画目標	施策(案)	取組(イメージ)	都市マ	臨海ビジョ
コミュニティバスの魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・区内南部地域における公共交通サービス圏域外の解消として引き続きその役割を果たすとともに、更なる利便性向上に向け利用者のニーズ等を踏まえた運行計画を検討する。 ・地下鉄8号線延伸や新技術の活用など将来を見据えた運行形態を検討する。 	豊洲ルートの本格運行		
		地下鉄8号線開業を見据えた運行形態検討		
公共交通サービス圏域外等への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄軌道駅やバス停から離れた公共交通サービス圏域外等について、よりきめ細やかな移動支援を必要とする移動制約者をはじめとする区民が円滑に移動できるよう地域特性も踏まえた移動手段の確保に取り組む。 ・路線バスの減便・廃止の可能性など今後の動向も見据えた対応について検討する。 	環境対策車両の導入調査・検討		
		自動運転技術の活用可能性の調査・検討		
多様なモビリティを活用した移動環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な移動ニーズへの対応や区内回遊性向上のため、既存公共交通を補完する地域内輸送資源や次世代モビリティの活用等により、移動環境の更なる充実に取り組む。 	公共交通サービス圏域外等への対応方針検討		
		デマンド交通システムの実証・導入検討		
		コミュニティサイクルの充実・利用促進	●	●
		モビリティハブの整備		●
		新たなモビリティサービス(次世代モビリティ)の活用検討	●	●
舟運の活用検討	●	●		
多様な交通モード・事業者の連携検討	●			

・計画目標を踏まえ、課題への対応の方向性を設定し、具体的な施策を検討中。

上位関連計画における取組との関連
(※上位関連計画における取組の記載とは完全に一致していない)

計画目標

3 社会情勢の変化を見据えた持続可能な公共交通環境の整備

- ・運転手不足などによる既存公共交通サービスの低下も想定される中、公共交通の維持に向け、輸送の省人化・効率化を図るため、新技術の活用を検討する。
- ・ゼロカーボンシティ江東区の実現に向けて、移動の低炭素化・脱炭素化を推進する。
- ・災害激甚化・頻発化や首都直下地震の想定等、災害リスクが高まる中、災害発生時の移動手段確保を検討する。
- ・将来にわたり持続可能な地域交通を維持するための体制・環境づくりを進める。

施策(案)	取組(イメージ)	都市マ	臨海ビジョン
新技術を活用した輸送の効率化・省人化	自動運転技術等の調査・検討		●
	自動運転を目指したロボタクスの推進		
交通における低炭素化・脱炭素化の推進	環境対策車両の導入の推進		
	環境負荷を低減する交通環境の整備	●	●
多様な交通を活用した災害時の移動手段の確保	発災時の移動手段確保の検討		●
	舟運(防災船着場)の活用検討	●	●
	区民への交通情報の提供のあり方の検討		
	災害時の通行経路確保のための無電柱化路線の整備	●	●
公共交通を利用した円滑な移動の促進	公共交通利用に係る広報・情報提供		
	デジタル技術の活用による交通分散		●
持続可能な地域交通を維持するための体制・環境づくり	交通体系の確保・維持に向けた行政支援のあり方の検討		
	交通事業者との継続的な連携・協議		

・施策・取組は案出し段階。今後、各関係者・協議会等の意見を踏まえて精査予定。